

学科名							
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。 ・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。 ・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。 ・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。 ・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。 						
日程と内容	<p>4/11 導入講義(授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示)および「教育相談」の定義の説明</p> <p>4/18 教師に望まれるカウンセリング・マインド～カウンセリング・マインドとは何か～</p> <p>4/25 教師に望まれるカウンセリング・マインド～具体的な技法、トレーニング方法～</p> <p>5/2 ～パーソナリティの諸理論、発達①～</p> <p>5/9 ～パーソナリティの諸理論、発達②～</p> <p>5/16 児童・生徒の理解～知能検査～</p> <p>5/23 児童・生徒の理解～人格検査①～</p> <p>5/30 児童・生徒の理解～人格検査②～</p> <p>6/6 児童・生徒の理解～カウンセリングの基礎技法～諸問題への対応</p> <p>6/13 諸問題への対応～不登校・いじめに対する理解と対応～</p> <p>6/20 諸問題への対応～非行に対する理解と対応～</p> <p>6/25 諸問題への対応～性的問題に対する理解と対応～</p> <p>6/27 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応①</p> <p>7/4 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応②</p> <p>7/11 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応③</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	最新の学校関係の知識となるよう出来るだけ直近のデータを様々に用意して配付するなど、より現実的・実践的な知識が身につくよう心掛けた。教育相談に関する教員採用試験の過去問および自分個人の意見を実際に言語化して述べるワークシートの提出を求めるなど、到達目標の達成をより主体的・能動的に行える機会を設けた。その結果、2名の不合格者が出たものの、最終試験では95%近い学生が合格点となり、授業到達目標が達成できたと言える。						
反省点	板書を利用した講義構成となっているので、板書のタイミングやスピード、両端に座っている学生への配慮をさらに行なう必要があると感じた。また、講義内でスマホいじりをしている学生が近年増えているが、その場で指導しても次回にまた同じことをくり返す学生も残念ながら見られたため、より厳しい指導が必要であると感じた。						
来年度の計画	今年度は前年度と同じく初学者に配慮したペースで進めた。関連する最新のデータや情報を提示するように心掛けたが、さらに現在の日本の教育現場をより実感できるような視覚的教材(ニュースや映像など)を取り入れるなど、よりリアルな実感を持てる講義となるよう心掛けていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの全項目において、全体の平均値を上回っており、またすべて3以上の評定となっていたため、授業構成や雰囲気自体に、大きな問題は見られなかったと捉えている。一方で、課題として、予習・復習に関する項目で全体的に時間が少なく、自学自習の習慣をより動機づける必要がある。自由記述による評価では、「説明が分かりやすかった」・「板書を用いた授業だったので分かりやすかった」といった内容の評価が複数から得られた。これを長所として、さらに視覚的な分かりやすい板書と日常に即した具体的な説明となるよう、さらに心掛けていきたい。						
履修登録者数	34名	定期試験 受験者数	31名	合格者数	29名	合格率	94%